



広報

# なは

市民の友

第804号毎月1日発行  
2018年(平成30年)

1月

市の人口と世帯	
※( )内はうち外国人	
2017(平成29)年11月末現在	
総人口	323,365(4,370)
男	156,740(2,408)
女	166,625(1,962)
世帯数	150,655(3,019)

発行 那覇市  
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号  
☎(代表)867-0111  
印刷 丸正印刷株式会社  
配布 那覇市シルバー人材センター



## 比嘉 聰さん 「和」を大切に自己主張する

市在住の比嘉聰さん(65歳)が、2017年度の国の重要無形文化財「組踊音楽太鼓」保持者(人間国宝)に認定されました。

組踊音楽太鼓は、沖縄の伝統芸能である組踊のなかで立方(演技者)の動きにきっかけを与えたり、感情や物語の展開を表現したりします。

比嘉さんは、曲趣を的確に捉え、端正で抑制のきいた演奏、また沖縄県立芸術大学教授を務めるなど後進の育成にも貢献していることが評価されました。師匠である故島袋光史さんに続き、師弟で人間国宝となった比嘉さんにお話を伺いました。



### 師匠の背中を追いかけて

私が太鼓を始めたのは大学1年生の時。琉球大学の郷土芸能研究クラブで太鼓演奏を見たのがきっかけでした。

太鼓は1人で打つもののだと思っていた私は初めて見る合奏に驚き、同時に大きな感動を受けました。太鼓は打てば鳴る単純な楽器ですが、その音には人を惹きつける魅力があります。

2年生になって島袋光史先生に太鼓を習い始めると、舞台上での太鼓の役割や立方とのかわり合いなどを、先生の太鼓持ちをしながら体で感じ取っていきました。太鼓は他の楽器と違い音階はありませんが、情景描写が求められます。緩急や強弱で表現しなければならぬところがとても難しいです。自己主張は必要だと思えます。地謡(歌三線、箏、太鼓、笛、胡弓)は全体のバランスを崩さず、前へ出すぎず、「和」を大切にしながら音を奏でることを心がけています。

先生の教えからいろいろなことを学び、多くの経験を積んできました。人に厳しく自分に厳しく、何事を行うにも真剣に取り組みなさいとおっしゃっていました。その考えは、いま私が後輩に教えるうえでも活かされています。

### 幼い頃から伝統芸能に親しむ

子どもの時、祖母や父が自宅で三線を弾いていました。大学時代にクラブの門をたたいたのも、記憶に残るその音に引き寄せられたからでしょう。

幼い頃から伝統芸能に親しむ環境があると自然と関心が向くのではないのでしょうか。伝統芸能をより身近に感じてもらうための取り組みとして、国立劇場おきなわでは「親子のための組踊鑑賞教室」の開催や、若手実演家によるワークショップなどを行っています。

私自身としては、小学生くらいの子どもたちが直接太鼓に触れる機会が作れないかと考えています。太鼓を揃えたり、場所を確保したりといった課題がありますが、どのような方法があるか模索しているところです。

子どもたちが伝統芸能に興味を持つには、様々な角度からのアプローチが必要です。那覇市が建設予定の新文化芸術発信拠点施設(新市民会館)も、子どもたちが気軽に沖縄の芸能や文化に触れられる場所であってほしいですね。いつも側にあることへの愛着が、独自の伝統芸能を次世代につなぎ、さらに発展させる原動力となるのではないのでしょうか。



1952年、旧久志村(現名護市)生まれ。1972年太鼓を島袋光史氏(歌三線を棚原忠徳氏に師事。2001年県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者。2005年より国立劇場おきなわ組踊研修講師。2015年からは沖縄県立芸術大学教授を務める。同年重要無形文化財「組踊」(総合認定保持者。2017年「組踊音楽太鼓」人間国宝、重要無形文化財「琉球舞踊」(総合認定保持者)。

### 主な紙面

- 人間国宝 比嘉聰さん「和」を大切に自己主張する／新春あいさつ・・・1
- なはし何でもTOP3／なはまちスタンパウォーク／償却資産の申告・・・2
- 臨時幼稚園教諭・保育教諭・保育士募集／市営住宅入居者募集・・・3
- 情報バック・・・4
- 博物館トピックス／ニュースダイジェスト・・・8

## 観光資源としてのマチグワ

あけまして  
おめでとう  
ございます

はいたい！いいそーぐわちでーびる。新年の門出にあたり、那覇市が大きく発展する年になることを心から願っています。

さて、その発展に必要な不可欠な沖縄県の経済状況は、「拡大している」とされています。特に観光産業が好調であり、県では2021年度までに入域観光客数を1200万人、観光収入を1.1兆円という目標を示しています。この目標達成に欠かせないものはなんでしょうか。私は「その土地の文化」が大きな魅力になると思っています。日常の何気ない風景が、訪れる人の目には新鮮に映ることがあります。こうしたまちの雰囲気を感じることができると、スポーツのひとつが、マチグワです。

昨年、古き良きマチグワ文化の象徴として多くの人に愛されてきた旧農連市場の風情を引き継ぎ、新たに「のうれんプラザ」がオープンしました。

人もまちも活き活きとした賑わいあふれるマチグワの魅力が、那覇のまちの個性として必ずや観光資源となります。市民の皆様も、今年の目標のひとつとして、ぜひ「のうれんプラザ」や第一牧志公設市場などを訪れて、那覇のマチグワ文化を体験してください。

今年ん ゆたさるぐとう うにげーさびら  
(今年もよろしく願っています)

那覇市長 城間幹子

